

*講演者 プロフィール

株式会社光タクシー 石橋 孝三社長

演題【地元密着の経営について】



多くの高齢者が利用する乗り合いジャンボタクシー。どこまで乗っても200円。いまや住民にとってなくてはならない生活の足となっている。

北九州市八幡地区は、その地名からうかがい知れる通り、八幡製鉄所に象徴される製鉄で栄えた地域である。企業城下町としての繁栄も今は昔。

26年前に新日鐵本事務所が八幡地区・枝光地区から撤退すると、その衝撃が押し寄せ、このまち全体が一気に衰退した。

かつて新日鐵に通うサラリーマンにとって憧れの住宅街であった枝光地区も今となっては全国的にも高齢化率の高い地域となり、かつては地域の台所としてぎわった枝光本町商店街は風前の灯となっていた。

ところが、今、「枝光」の名は北九州でちょっとした話題のスポットとなっている。



商店街の風景



青果店、惣菜店、生花店、衣料品店など、およそ20店舗が並ぶ。

衰退を辿る商店街と買い物難民の両方を救った“乗り合いタクシー”

山間に切り拓かれ、山の斜面にへばりつくようにびっちり住宅が並ぶ枝光地区。車は不可欠にも思えるが、道路は坂が多く狭く曲がりくねっており、物理的に車庫スペースも確保できない事情から、モータリゼーションとは無縁のまま取り残された格好で、多くの住民は自家用車を持たない。公共のバスルートが通る道も枝光地区では1本しかない。

そんな枝光に12年前、長年地元でタクシー業を営んできた(株)光タクシーが高齢化でますます動きのとれなくなった住民のために乗客9人が乗車できるジャンボタクシーを導入し、格安で運行する「枝光やまさか乗り合いジャンボタクシー」を始めたのだ。

(現在は12名乗車可能)

まさに、枝光地区に光タクシーが一筋の光明を射した。

「道が狭く、路線バスの拡大は無理ですし、タクシーといつても年金生活者には負担が大きい。

商店街までの急な坂の登り下りは高齢者にはそれはきつく、どうしても家を出るのがおっくうになってしまいますし、そうすると商店街はますます寂れ、しまいにはなくなってしまいますよ。そうなれば、私たちタクシー会社の将来もない。

そこで、まちを守らなければ始めたのが、バスでもタクシーでもない乗り合いのコミュニティトラフィックというわけです」と語るのは、(株)光タクシー石橋孝三社長。



石橋孝三社長

山間に切り拓かれたまちだけに、坂道が多く、道も狭い乗り合いタクシーは、ジャンボタクシー2台がフル稼働し、東西約2キロ・南北700メートル、1万7・8千人が住むというエリアを5ルート運行している。「商店街を守る」というのが大きな使命だけに、いずれのルートとも枝光本町商店街発着だ。

運賃はどこから乗ってもどこで降りても一律200円。年間300日運行し、年間10万人程が利用する、いまや生活の足としてなくてはならない存在として定着している。

「導入当初は、運転手たちがそんなことをやったらタクシーを利用しなくなってしまう、自分たちの身入りが減ると猛反対しました。しかし、いざ始めてみると、地域の高齢者たちから、光タクシーのおかげ、運転手さんのおかげと感謝され、まんざらでもないですし、本業のタクシーの方も相乗効果で利用率が上がっています。しかも、全国的に珍しい取り組みと、テレビや雑誌などにたくさん取り上げられ、会社の知名度向上にもなっています」(石橋孝三社長)

本来、こうした地域の社会問題を解決するのは行政の役割と棚上げされがちだが、いち民間企業が積極的に挑んだのは画期的といついいだろ。行政からの援助は、5年に一度、車1台につき上限300万円の代替え補助がある。2台の車と運転手8人がフル稼働し、採算ギリギリでまちの足を守っている。

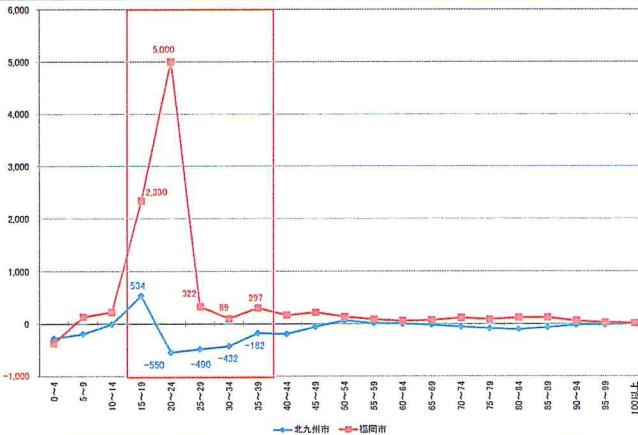
生活の足が確保されたことで、商店街にも客足が回復しているばかりか、ここ数年はわずかではあるが、うどん店や用品店、リサイクルショップなど新規出店もお目見えしている。



北九州市の将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所より) 3



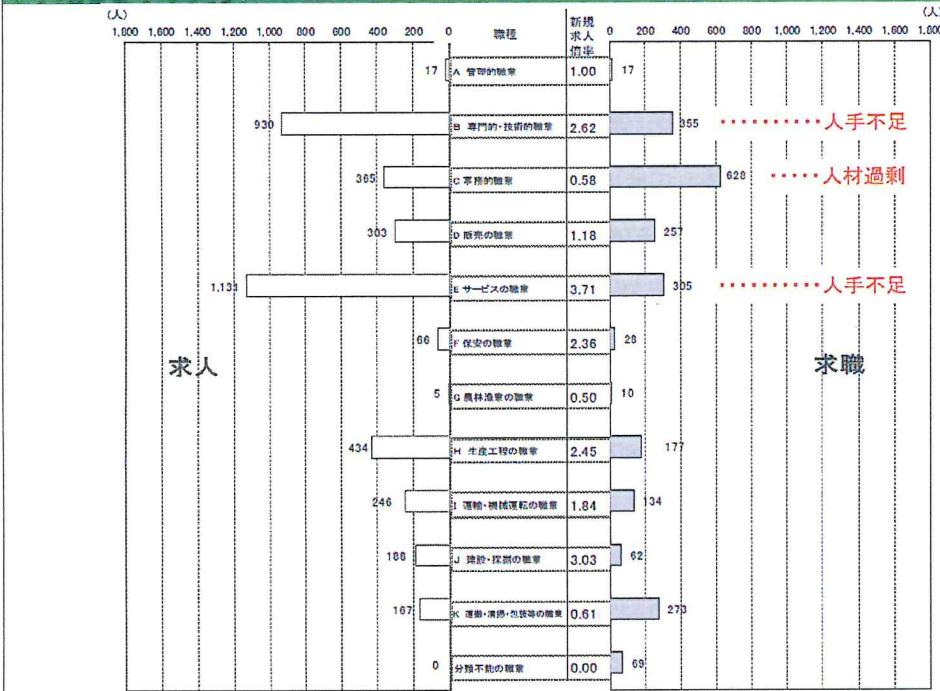
北九州市と福岡市の5歳階級別転入、転出の差(H25. 10~H26. 9) 9



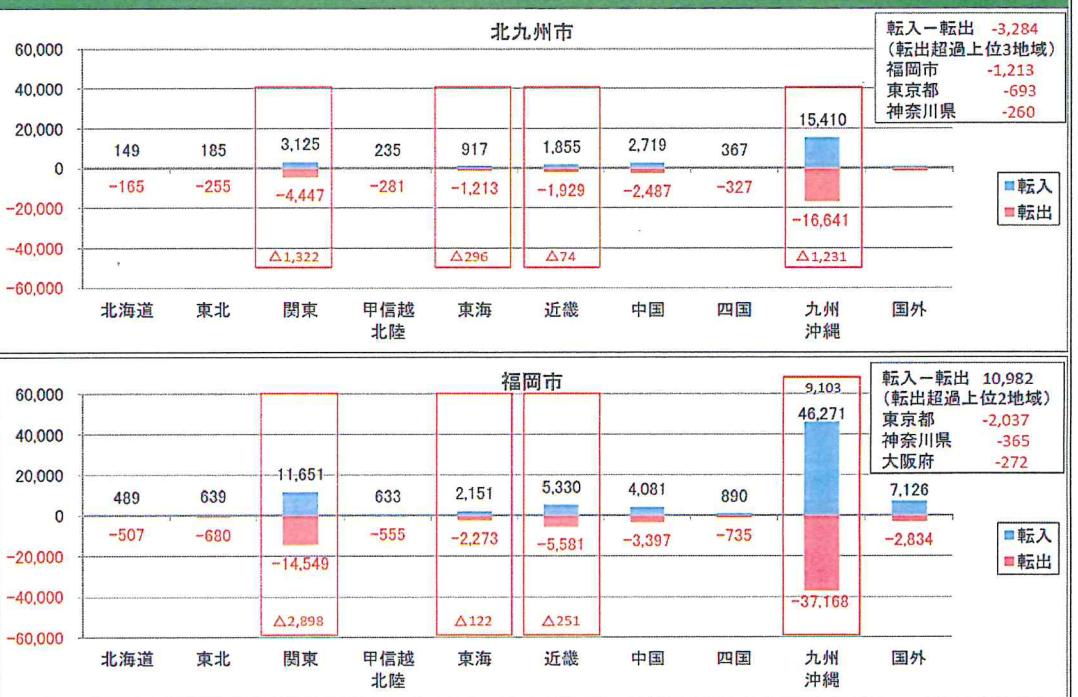
北九州市の総人口に占める高齢化のピーク (国立社会保障・人口問題研究所より)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総人口	976,846	961,748	936,127	903,262	866,164	826,141	784,162
(再掲)0~14歳	126,650	119,391	109,851	99,025	89,567	83,630	79,211
(再掲)15~64歳	603,733	556,315	523,454	501,584	478,798	448,404	409,013
(再掲)65歳以上	246,463	286,042	302,822	302,653	297,799	294,107	295,938
(再掲)75歳以上	120,570	142,873	162,210	186,536	193,548	187,700	180,079
	12.3%	14.9%	17.3%	20.7%	22.3%	22.7%	23.0%

北九州市の職業別 新規求人、求職の状況 (平成26年11月)



北九州市と福岡市の地域別転入、転出者数(H25. 10~H26. 9) 10

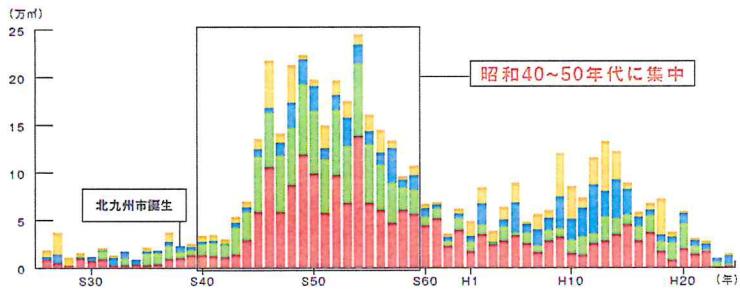


昭和40年代から50年代に集中して整備

本市は昭和38年、五市（旧門司・小倉・若松・八幡・戸畠）の対等合併によって誕生しました。当時は、高度経済成長に支えられ、全国で積極的な社会資本整備が行われており、本市においても急ピッチで公共施設等の整備が行われました。そのため、本市の公共施設が整備された時期は、昭和40年代から50年代に集中しています。

■公共施設の築年別の状況 出典：北九州市総務企画局（平成25年3月）

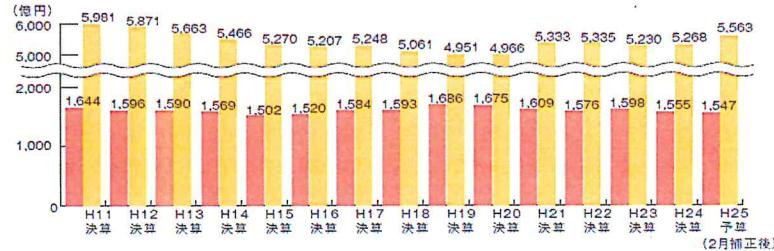
■市営住宅 ■学校教育施設 ■市民利用施設 ■その他



「市税」は平成19年度以降減少傾向

本市の一般会計歳入における「市税」は、平成19年度以降減少傾向が続いています。

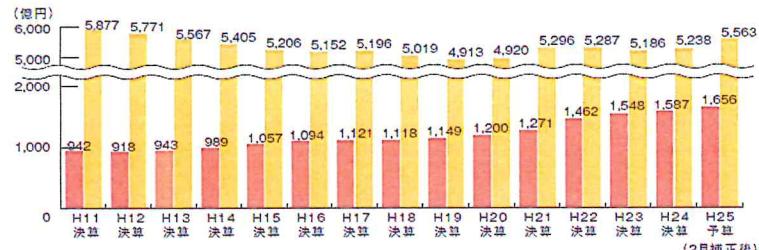
■一般会計歳入の推移 ■市税 ■全体



「福祉・医療費」は年々増加

少子高齢化の進行などにより「福祉・医療費」は年々増加しています。

■一般会計歳出の推移 ■福祉・医療費 ■全体



都市の魅力を発露させる12の条件

Protection

- ①自動車、そして事故から守られていること =安全= 守られていること 歩行者としての安全 交通事故の恐怖からの開放
- ②犯罪、そして暴力から守られていること =守られている感覚= 賑わいのある公共空間、街路を見ている目、しっかりとした照明
- ③感覚的に不快な体験から守られていること 風、雨、雪、寒さ、暑さ、公害、ホコリ、騒音

Comfort

快適であること

- ①歩く機会が提供されている

歩く空間、歩行の邪魔がない、路面が快適、誰でもが歩ける
興味深いファサード（建築物の正面デザイン）

- ②立つ、留まる機会が提供されていること

立つのに程よい壁のようなものがある
立つことを補強するものがある

- ③座る機会が提供されている

座る空間がある、日光浴・景観を楽しめる、
座るのに適したものがある、休憩のためのベンチがある

- ④見る機会が提供されている

程よい距離感を持って、見ることができる
邪魔をされずに展望が得られる、興味深い景観、夜間照明

- ⑤しゃべったり、聞いたりする機会が提供されている

騒音がひどくない、おしゃべりができるような街路環境

- ⑥遊んだり、運動したりする機会が提供されている

程よい距離感を持って、見ることができる
邪魔をされずに展望が得られる、興味深い景観、夜間照明

Delight

喜ばしいこと
歓びがあること

- ①規模

建物と（建物との間）の空間がヒューマンスケールであること
②微気候を楽しむ機械が提供されていること

日光／日陰、暖かさ／涼しさ、そよ風

- ③心地よい互換の体験ができる

優れたデザインとディテール、優れた材料
優れた景観、樹木・草木・水

「人間の街：公共空間のデザイン」著者：ヤングエールより